

裁判の時間短縮とAI化

福井県武生高等学校

①問い

「裁判の公判前の手順にAIを導入することは可能か」

「どのようなAIを導入できるのか」

②背景

- ・現在の民事裁判の課題を調べる

(民事裁判の満足度が低い, 裁判官不足, 費用が高い, 裁判を利用しにくい, 裁判員の精神的負担)

⇒「**裁判を被害者が利用しにくい**」に注目
理由) 一番私達にも考えられそうだから

- ・最近は多くのものがAI化しており裁判前の過程に
AIを導入する

⇒時間が短縮 ⇒利用しやすくなる？

③仮説

検察官側

AI化することで検察官の手間が省け、時間が短縮できる

被害者側

時間が短いことで被害者の方も相談がしやすくなったり、
気持ちの面でも負担が少なくなる

④研究方法

1) 先行研究を調べる

2) 法テラス、弁護士の方にインタビューをする

3) AIをどこに導入するべきか考え具体的なプランを
考える

4) 弁護士の方にプランを見ていただく

5) 改善、再検討を繰り返す

6) 完成

⑤先行研究

AI導入のメリット

被害者

- ・裁判所や裁判官のブレがない
- ・費用が安くなる
- ・公正中立な裁判

検察官・裁判官

- ・業務の効率が上がる
- ・労働力不足解消
- ・裁判にかかる時間を削減

AI導入のデメリット

被害者

- ・AIにあまり信用がない
- ・間違いの判決をされる可能性がある

検察官・裁判官

- ・前に述べられた意見に強く影響
- ・裁判に人間味がなくなる
- ・情報漏洩のリスクがある

AIを導入できる場合

- ・イージーケース(類似の先例や明確な法令◎
全ての法律家と同じ意見)
⇒AI化できる○

- ・ハードケース(類似の先例や明確な法令×
立場や法律家によって意見が異なる)
⇒AI化できない×

アメリカの一部の州の民事裁判のAI化の事例

執行猶予のつける判断に過去のデータを用いてAIで
再犯の可能性を分析

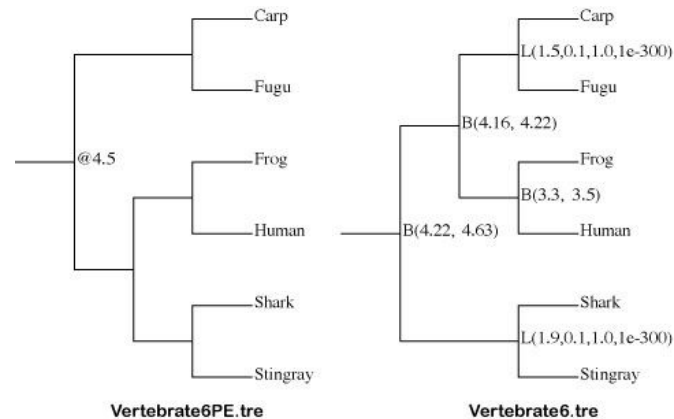


そのデータを参考

➡AIを活用している州のほうが犯罪の再犯率が低い

⑥構想

検察官側



- **ベイズ法** (過程を樹形図化したもの) としてAIを活用

⇒ 裁判前の思考の過程がわかりやすくなる

・検察官などがバイアス(先入観や偏見、人の思考や行動に偏りが生じる要因)を防げる

被害者側

- 弁護士に相談する前に自分の案件を知れるアプリを作る
例) #7119(救急車を本当に呼んでもいいか確認する)

⇒・自分の案件に対する情報が知れて安心度がます

・弁護士に相談しやすくなる

⑦今後の計画

- 7～8月の間に4人の弁護士さんに面談をして頂く予定
目的)・今の民事裁判の時間がかかる工程やその理由を詳しく伺いたい
 - ・私達の研究に対するアドバイスをいただきたい
- 弁護士さんに教えていただいた情報からAI化できそうな過程を考える
- 先行研究を調べる

国際情学研究所(2022)「AI裁判の導入は『期待』と『不安』」 NII Today(雑誌名)
<https://www.nii.ac.jp/today/97/2.html>

太田勝造(2019)「AI裁判支援システムへの人々の期待と受容」東京大学、明治大学
https://research.nii.ac.jp/saiban_support/kibanS20190607/4E2-OS-7a-04.pdf

国立研究開発法人科学技術復興機構、科学技術研究開発センター(2021)「対談『デジタル化する法 司法判断へのAIの導入は何を変えるのか』」
<https://www.jst.go.jp/ristex/hite/topics/463.html>

NHK(2023)「ChatGPTが裁判官？AIに裁かれる未来、受け入れますか」
https://www3.nhk.or.jp/news/special/sci_cul/2023/05/special/ai-judgement